

今日のみことば

□ 12月31日（日） 申命記 19章

のがれの町がヨルダン川東側に三つ、西側に二つ定められたこれはモーセの律法に一環しているいのちの尊さ、神と人間に対するより高い基準によるものでした。

□ 1月1日（月） 申命記 20章

この章には戦争についての律法が記されている。神の民は生活全般にわたって神に依った。それは今日の戦争に適用されるものではなく、霊的戦いにおいて適用されるものである。

□ 1月2日（火） 申命記 21章

神は人間一人一人の基本的な価値と権威を認めておられた。社会が最も軽蔑している人たちに対してもでもである。人命の尊重は今日大いに尊重されねばならない。

□ 1月3日（水） 申命記 22章

神の民はあらゆる点で、ほかの民の模範でなければならなかった。それは今日もそうである。隣人愛において、高い道徳性においても高潔でなければならぬ。できるの信仰によって。

□ 1月4日（木） 申命記 23章

この章には主の会衆から除かれなければならない者と種々の社会的規定について記されている。神の教会の清さが求められ陣営の純潔、弱い民の保護は神の民に要求されたものである。

□ 1月5日（金） 申命記 24章

離婚状のことと、いつくしみについての規定が記されている。離婚状は夫の横暴から妻を守るため。弱者に対する様々な規定など、いずれも弱者保護という神の民に要求された倫理である。

□ 1月6日（土） 申命記 25章

この章には正義、いつくしみ、純潔についての規定が記されている。今日とは無関係に見えるとしても、正しく、節度をもったなされなければならない。

ろ ぼ No. 1848
2017年 12月31日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

マタイ 28:20

あなたがたに命じておいた
いっさいのことを守るよう
に教えよ。いつもあなたが
たと共にいるのである。

私たちは前進するためには、歩んできた道をしっかりと踏みしめて行くのです。この一年私たちは、様々な出来事とおして、神さまのご栄光を拝ませていただきました。良きことについても、心にそぐわなかったことについても私たちは、その一切を喜んで受け止めて、主に感謝をさせていたくのです。

パウロは「兄弟たちよ、わたしはすでに捕らえたとは思っていない。ただこの一事を努めている」（フィリピ3:13）とフィリピの人たちに書きました。パウロがどのような人物であるか、当時の人とたちはもちろんのこと、私たちも承知しています。その彼が、まだ、し残したことがあると言うのです。

神さまの計り知れないあわれみの中に生きてきた、祝福の人である彼が、このように言って、何を私たちに伝えたいと願っているのでしょうか。

彼のこれまでの人生は、私は感謝でいっぱいであったと思っています。キリストに出会うまでの罪に満ちた日々を、キリストに救われてから、キリストのために負ってきた様々な苦勞を考へても、彼の人生は喜びと感謝に満ちあふれたものであったと思っています。彼はその日々を「わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全な者となっているとか言うのではなく、ただ捕らえようとして追い求めているのである。そうするのは、キリスト・イエスによって捕らえられているからである」（フィリピ

3:12) と言うのです。私たちもまた、神への感謝を述べながら
まだまだ私たちはしっかり捕らえなければならぬものがある
のです。そこでパウロは「このだだ一事を努めている」という
のです。私はこれが、年の区切りでしっかりと踏み固めさせて
いただかねばならない大事だと考えているのです。

歩んできたこの一年の様々な出来事を、しっかり踏まえて先
を見つめて私たちは歩んで行くのです。すべてを感謝して受け
止めて、さらに私たちは先を見つめさせていただく時、そこに
出てくる「一事」が大事になりませんか。それは何ですか。

イエスは「あなたがたに命じておいたいっさいのことを守る
ように教えよ。いつもあなたがたと共にいるからである」(マタイ
28:20)と言われ、箴言は「預言がなければ民はわがままにふる
まう。しかし律法を守る者はさいわいである」(箴言29:18)と
言いました。私たちが歩むべき道は明らかにされているのでは
ありませんか。み言葉に忠実に生きることです。今日の世界で
の混乱の原因は、ここにあることをみんな承知です。けれども
それを認めようとはしない。それは自分の不利益になるからで
す。それでもそれを押しとおそうとする、愚かな者たちがいる
と言うことには言葉はありません。私は、生かされているこの
世界の歩みと、かけ離れた人生は考えの中にはありません。と
同時に、そこに足を置いて見つめると言うこともいたしません
私はいつもその軸足を、み言葉に置かせていただいています。
WWJDとの言葉を忘れていただいても困ります。「イエスな
らどうされる」です。「共にいる」との主の約束があります。
もっと神さまへの信頼篤い私たちの歩みへと導かれることが、
今日私たちに求められているのです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
マルコ 1:1-15 福音の源。

マルコによる福音書の書き出しは、「神の子イエス・キリス
トの福音の始め」です。そしてこれがマルコが伝えたかったす
べてです。私たちはこの書をとおして、福音といかなるもので
あるかを聞かせていただくのです。

マルコはイエスの何をここで語っているか。彼はしっかりと
イエスの言葉と行動を書き記しました。イエスの現実を私たち
に伝えるのです。そのお方が十字架にかけられ、私たちの罪の
贖いとなって下さったと伝えるのです。イエスの超人的能力を
特に強調し奇跡によってその神性を実証します。マルコ福音書
には山上の説教の大部分は省略されています。イエスが語られ
たことよりもなされたことを記述しました。

生きてこられたイエスの中に、福音はあると言うのです。神
が私たちの救いのために送られたイエスです。そのお方を「神
のことば」として聞かせていただくのです。



Read God's Word.

| | | |
|----------|------------|---------|
| 次週の聖書・説教 | ヨハネ1:35-50 | 見よ、神の小羊 |
|----------|------------|---------|